



第14回施設連絡責任者会議

2019年3月2日京都府立医科大学基礎学舎において第14回施設連絡責任者会議を開催いたしました。

今年は昨年12月に施行された医療法等の一部改正に関連して、その解説と対応すべき内容について白波瀬会長が講演されました。

検体検査を行う医療機関においては精度管理に係る責任者の選定が必要になりましたが、医師の他に臨床検査技師がその責務を任されることは大変重要なことと思えます。そのための十分な力量を持った人材を育成するために日臨技としても取り組みが開始され、eラーニングによる講習会が開催されています。



また、各種標準作業書、日誌等の作成支援のため、会員サイトから雛形がダウンロードできますが、自施設の現状確認と品質向上を目指すための機会として、各施設にあった手順書の作成が望まれるとのことです。

今回、内部精度管理の実施、外部精度管理の受験は努力義務にとどまりましたが、将来に向け、臨床検査技師の存在がますます重要になるものと思われまます。



昨年に引き続き、60名を超える多くの方に参加を頂きました。今回の法改正の重要性と各施設の精度管理、品質保証への関心の高さをうかがい知ることができました。

文責 康生会武田病院 西村 和司

第34回京臨技精度管理調査合同報告会

2019年3月2日京都府立医科大学基礎学舎にて開催し62施設（参加数64件）が参加されました。本年度もJAMTQCシステムを使用して行うことになりましたが、参加施設におきましてやや操作に慣れてきたのではないかと思います。

本年度も各研究班共に評価をA～Dに統一すること、正解率は70%以上を目標にすることとして行いました。

各研究班の精度管理委員よりそれぞれの分野の解答、出題の狙いや、出題の意図、解説など各研究班とも丁寧に解説いただきました。



日臨技の進めている精度保証認定制度認定に必要な“精度管理に関する研修会への参加”に合致する本報告会には、ぜひ今後とも各施設よりご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

文責 宇治徳洲会病院 江口 光徳

検体採取等に関する厚生労働省指定講習会



厚生労働省の告示に基づいて日本臨床検査技師会が実施する講習会は今年度が最終となります。

検体採取業務をするしないにかかわらず臨床検査技師の国家資格にかかわる講習会ですので、まだ受講されていない方は早めに受講をお願いいたします。

ニューリーダー育成研修会

平成31年4月20日にニューリーダー育成研修会が開催されました。

次世代のリーダーと現在のリーダー（理事）が集い、リーダーに必要な知識や手法を学び、これからの活動にむけてやる気になるための研修会を開催しました。

午前の部は、日臨技代表理事の横地副会長に『医療情勢と次世代リーダーに求めるもの』と題して講演をいただきました。優れたリーダーに必要なスキルや行動力を学ぶことができました。実践するための最初の一步を踏み出すキッカケとなる内容でした。

午後の部は、オフサイトミーティングという手法を用いてグループワークを実施しました。4～5名のグループに分かれて、【理想の臨床検査技師像とは？】【京臨技会員を1500名にするには？】をテーマにディスカッションが行われ、最後にグループ発表を行いました。継続開催することでコミュニケーションスキルなどさらに磨きをかけたいと思います。



<参加者の声>

- ・他施設とのグループワークでディスカッションして、いろいろな価値観があると改めて実感した
- ・チームで協力してタワーを作るゲームが楽しかった
- ・「オフサイトミーティング」という手法が勉強になった。
- ・自分の専門分野以外の方と知り合えて良かった
- ・「気楽にまじめな話をする」オフサイトミーティングはいろいろな場面で活用できると思った。

平成30年度公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰

京都民医連中央病院 山口 俊朗

2019年2月2日に一般財団法人公衆衛生功労者協会会長表彰を頂きました。受賞に際し、推薦頂きました京都府臨床検査技師会白波瀬会長、理事、会員の皆様にお礼を申し上げます。また、京臨技での研究班班長、理事、監事、近臨技理事を通して多くの先輩にご指導頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

1983年に入職し主に生理検査を担当していましたが、特に超音波検査の技術進歩が大きい時代でした。入職した頃は、画像をテレビに映しそれをポラロイドカメラで写していましたが、その数年後にはカラードプラ法が臨床応用されそれまで心音やMモードで診断していた弁逆流が一目でわかるようになりました。また、正常者でもわずかな弁逆流があることがわかり新しい基準が設けられていきました。

これからも検査技術はがんゲノム医療、質量分析による疾患プロテオミクス、AIなど多くの技術が臨床に応用されようとしています。今後若い臨床検査技師の皆さんが新しい技術の開発や臨床応用で臨床検査技師としての地位の向上、また多くの認定技師が施設基準等に取り入れられ一部でも業務独占が可能となるよう今後の活動にエールを送りたいと思います。



編集後記 「CT画像の見方よくわからない」「薬と検査値はどう関係するのだろう」「ポンプのアラームが鳴ったらどうしよう」「車椅子への移乗介助、もっと楽にできないかな」「患者さんとどう接したらいいの？」など日常業務で思うことありませんか？ 前回の参加者から「楽しかった」「明日から役に立つ」「いろんな職種の話をもっと聞きたい」など大好評だった「多職種連携の講習会」の発展形として、今年度はCT画像の見方も追加して「ベッドサイド実践研修会」と銘打ちさらに充実した研修会を開催します。さまざまな職種の先生方を講師にお招きしてそれぞれのプロから教えていただきます。実技講習もたっぷりあります。9月28・29日に開催します。他職種のスキルを身につけてコメディカルマスターになりましょう（さ）

発行所 (一社)京都府臨床検査技師会
発行責任者・編集者：白波瀬 浩幸
編集者：齊藤祐巳子 山田雅 佐藤晴久
〒606-8395 京都市左京区東丸太町 9-1 マンパワービル3F
TEL・FAX 075-752-5090

<http://plaza.umin.ac.jp/kamt/>
会員専用ページ：ID kamt PW kyoringi

ご意見等は、京臨技ホームページのトップページ最下部
「お問合せ」ボタンから